

エウアドル大使に首藤氏 延岡市出身、兄は前市長



首藤祐司氏

延岡市出身の首藤祐

司氏が7日付でエウアドル大使に就任する。政府が4日午前の閣議で決めた。首藤氏は東大法卒。昭和59年建設省に入り、住宅金融支援機構理事、国土交通省官房

審議官を経て今年7月退職。58歳。首藤氏は兄と姉の3人きょうだいの3番

目。兄は前延岡市長で大正大学地域構想研究所客員教授の正治氏。

記者手帳

2018.9.5

延岡の車は、横断歩道で人が待つていても止まってくれないと指摘されて、ドキリとしたことがある。旭化成の山添勝彦顧問が延岡支社長だった平成26年のこと。山添氏は奈良県出身。筆者の「県外出身者から見た延岡は？」に対する答えであり、紙面にも掲載した。あれから4年。少しは改善しただろうか。

▽ JAF(日本自動車連盟)が昨夏、都道府県ごとに2カ所ずつ計94カ所の信号機のない横断歩道で調査したところ、歩行者が渡ろうとしている場面でも一時停止した車はわずか8.5%。9割以上の車が止まらなかった。停止率1位は長野県で64.2%。2位以下の県別データは非公表のため本県の結果は分からないが、平均の低さから考えて、上位と下位の差が大きいに違いない。

▽ 横断歩道で歩行者が渡ろうとしている時に一時停止しない行為は、マナー違反どころでなく道路交通法違反だ(第38条)。同じくJAFのアンケート調査に「横断歩道手前で停車したら、後続車が追い越していった」との報告もあった。これも同法違反。その上、車が止まったことに安心して横断し始めた歩行者が後続車にはねられる恐れもある危険な状況だが、市内でも見受けられる。運転者全員が歩行者優先を肝に銘じなければと思う。

▽ 同連盟は「横断歩道で止まります」と宣言するステッカーを作り、申し出た企業に交付する事業を福岡県内で始めた。本県でもこのステッカーが広まってほしい。(N)